

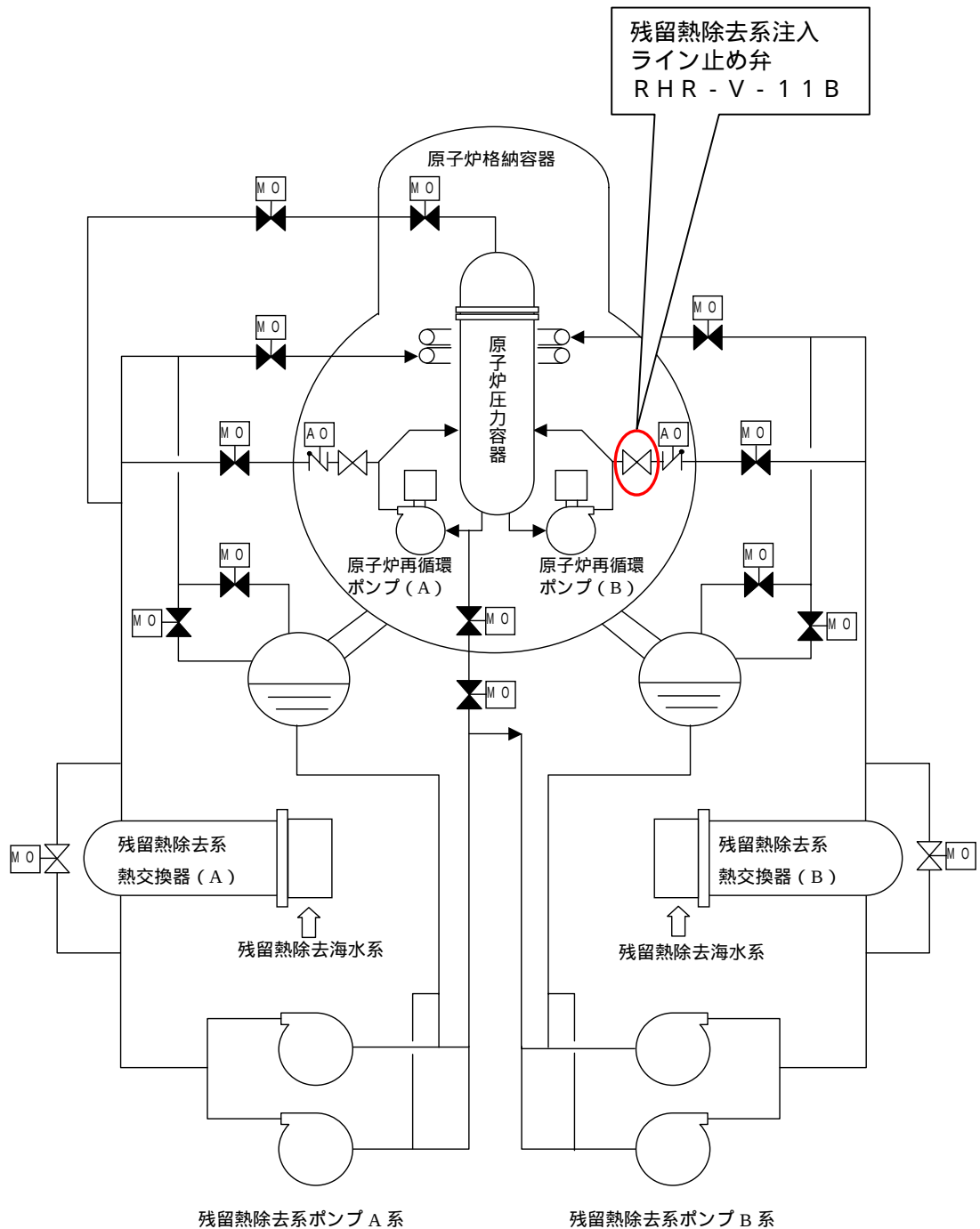
女川原子力発電所 定期検査・主要機器点検情報

No. 1 (改)

(平成15年8月分)

号	機	1号機		定 期 検 査	第 1 5 回定期検査		
件	名	残留熱除去系注入ライン止め弁開度検出器の誤信号の発生について					
月	日	平成 1 5 年 8 月 4 日 (月)			発 生	発 見	確 認
場	所	原子炉建屋	設 備	残留熱除去系注入ライン止め弁	設備区分	安全上重要な系統	
設備概要	残留熱除去系は、原子炉を停止した後に、炉心より発生する崩壊熱を除去・冷却するための系統で、冷却材喪失事故時には非常用炉心冷却系（ E C C S ）や原子炉格納容器を冷却する系統として機能するように設計されています。 注入ライン止め弁は、原子炉格納容器内にある、口径約 50 c m、高さ 1.8m の手動弁で発電所運転中は常時開いており、定期検査時等において当該系統の機器を点検する際には、この弁を閉めて点検を行います。						
所 見	- 平成 1 5 年 8 月 4 日、第 1 5 回定期検査の調整運転中、「残留熱除去系・残留熱除去海水系 B 系作動除外」の警報が発生しました。 - 原因を調査したところ、残留熱除去系注入ライン止め弁（ R H R - V - 1 1 B ）が全開状態であるにもかかわらず、その開閉状態を検知する検出器から、当該弁が全開でないことを示す誤信号が出されていることを確認しました。 - また、当該検出器からは警報発生用の信号と中央制御室の弁開閉状態表示灯用の信号が出ていますが、警報発生時、弁開閉状態表示灯は当該弁が全開状態であることを表示していました。 - 両方の信号の電気回路を点検したところ、警報用の信号の電気回路に不具合があることが判明しました。 - 当該弁については、原子炉起動前の点検で全開状態であることを確認していること、また、中央制御室の弁開閉状態表示灯が正常に動作していることから、通常運転に支障はないと判断し、当該誤信号を除外して運転を継続いたしました。 （平成 1 5 年 9 月 1 0 日お知らせ済み） - 第 1 6 回定期検査において、当該検出器を点検したところ、内部に錆が発生し、弁が全開となっても全開でないことを示す、誤った警報用の信号が出されていることが確認されました。 1 1 月 1 6 日に当該検出器を交換するとともに、類似する検出器の点検を実施（ 1 2 月 3 日完了）し、異常のないことを確認しました。						

残留熱除去系系統図



女川原子力発電所 定期検査・主要機器点検情報

No. 7 (改2)

(平成16年10月分)

号 機	1号機	定 期 検 査	第16回定期検査
件 名	原子炉給水ポンプ(A)ウォーミング配管について		
月 日	平成16年10月27日(水)	発 生	発 見 確 認

場 所	タービン建屋	設 備	原子炉給水ポンプ	設備区分	それ以外の系統
設備概要	原子炉給水ポンプは、原子炉に給水を供給するためのポンプです。 ウォーミング配管は、主に原子炉給水ポンプを起動する際の暖機に使用するラインです。				
所 見	- 原子炉給水ポンプ(A)ウォーミング配管は、減肉しやすい環境ではないことから、今回、肉厚管理の確認のため、初めて肉厚測定を実施しました。 - その結果、当該配管の他の部分では、減肉は確認されなかったものの、当該配管の一部(長さ15cm、外径:34mm)において、公称肉厚6.4mmのところ、4.4~4.8mmの肉厚が確認されました。 (11月11日お知らせ済み) - 当該部は、安全上必要な肉厚が十分確保されていますが、当初計画の配管と異なっていたことから、11月18日に適正な配管に交換しました。 - また、原子炉給水ポンプ(B)および(C)のウォーミング配管には異常は認められませんでした。 (12月8日お知らせ済み) - さらに、11月6日から12月27日に当初計画と異なる配管が取付けられていないことを確認するための点検を実施し、問題のないことを確認しました。				
	原子炉格納容器 当該箇所 約 15cm 当該箇所拡大図 原子炉給水ポンプ				